

企画シリーズ

e木工
MOKKO

冬の展示会特集

「中小企業新ものづくり・新サービス展」

木工・建具・家具の各分野の中小企業が出展

全国中小企業団体中央会（森洋会長）が主催するものづくり補助事業展示商談会「中小企業新ものづくり・新サービス展」が12月14日から16日までの3日間、東京都江東区の東京ビッグサイト東7ホールで開催された。この展示会はものづくり補助金を活用した全国の中小企業が開発した新製品や新技术を様々な分野で紹介し、新たなビジネスの機会を創出する目的で開催されている。今回は「未来に挑戦する、創造力に出会う」をテーマにSDGsに取り組む事業所を主体に出展者を構成。会場を「機械・部品」「情報・通信」「化



(有)カネサダ横尾木工所「虹彩杉」

学・繊維・紙」「電機・電子部品」「物流・サービス・その他」「医療・生活・ヘルスケア」「環境・建設・エネルギー」「農林水産・食品」の7つの分野に区分けし、各分野において専門的な技術を有する中小企業が情報発信を行った。



(有)松丸建具店：木製防火ドアと木製防火金庫を展示



(有)石動木工所：様々な工夫を凝らした木製建具・家具を展示

建具・家具の新作展示

「環境・建設・エネルギー」の分野では(有)松丸建具店が出展し、木製防火ドアと木製防火金庫の実物を展示(写真)。独自開発の木製防火ドア「ハート」は桐材と耐火クロスを組み合わせによって高度な耐火性能を実現。一般的に防火ドアは金属製が主流であるが、同社開発の防火ドアは木製でありながら60分耐火の認定を取得。ホテルなどの特殊建築物に使用することができる。オーダーメイドであるため、サイズやデザインも自由に設定でき、仕上げの素材も選択が可能。木製であるため吸音性能や断熱性能にも優れており、木の質感がドアのイメージに高級感を与えている。また、防火戸としての認定以外にエコマーク商品の認定も取得。エコマークは間伐材やリサイクル材など、環境負荷を軽減する素材を使った製品に対して与えられるものであり、SDGsの達成に貢献する製品として認められている。木製防火金庫「蔵ノ介」も木製防火ドアと同様の技術を活かした製品であり、60分耐火の仕様。金庫の扉はリモコンキーやスマートフォンでも施錠と解錠が可能だが、鍵での施解錠もできるようにしている。

同じく「環境・建設・エネルギー」の分野で出展した共和成産(株)はレーザー加工機を活用した木質素材の微細加工を得意とする。組子の文様な

どをMDFや合板などに加工し、インテリア製品として販売している。使用しているレーザー加工機は木工用ではなく、より高出力の鉄材加工用のものであり、木質系の素材以外にも樹脂やアルミ素材の加工に対応している。

(有)カネサダ横尾木工所は杉材と異素材を組み合わせた「虹彩杉」を出品(写真)。大分県の日田地方で産出された杉材にアクリル板を挟み込むことで照明の光を透過させ、木材でありながら色彩感豊かな表現を可能にしている。

(有)石動木工所はものづくり補助金を活用してアーテンドルフ社のスライドソーとシンクス(株)のNCルータを新規に導入。生産効率が改善し、家具の製作時間が以前に比較して短時間化した。事業所は家具製作が主力であり、新規の加工機を導入したことによって関東の現場施工にも対応できるようになった。会場では障子、建具の納まりを利用したガラス棚などを展示(写真)、障子の引き手には独自に製作した組子細工が取り付けられるように工夫した。

主催者イベントコーナーではコンバートEVの特別展示を実施。フォルクスワーゲンビートルとミニクーパーのヴィンテージ車を電気自動車に改造した事例を展示し、最新の電気自動車技術の活用例を紹介した。